

2019 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
A S Oポップカルチャー専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、A S Oポップカルチャー専門学校の2019年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2020年 3月 31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 高橋 賢二

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 12 -
	基準 5 学生支援	- 13 -
	基準 6 教育環境	- 14 -
	基準 7 学生募集	- 16 -
	基準 8 財務	- 17 -
	基準 9 法令遵守	- 18 -
	基準 10 内部質保証	- 19 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 20 -
	基準 12 国際交流	- 21 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

教育理念

創造性を磨き、それを支える専門技術を高めます。

同時に、創造性の源となり、チームでの創作活動を支えうる人間性、人格の成長を図ります。

教育目標(人材育成像)

1. A S Oポップカルチャー専門学校「在学中に成長する喜びを知ることにより、卒業後も継続して成長し、ポップカルチャー業界で活躍し続けられる人材」を育成する。

2. 各専攻、コース

(1) ゲーム・CG・アニメ専攻科ゲーム専攻（4年制）3DCGプログラミングからネットワークプログラミングまで、ゲームプログラマーに必要な高度なプログラム技術を習得し、業界の最先端で活躍できる人材を育成する。

(2) ゲーム・CG・アニメ科ゲームコース（3年制）ゲーム開発を通じてプログラム言語を習得し、ゲーム業界をはじめ、IT業界でも幅広く活躍できる人材を育成する。

(3) ゲーム・CG・アニメ専攻科CG専攻（4年制）コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーション、VFXについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(4) ゲーム・CG・アニメ科CGコース（3年制）コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、モデリングやモーションについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(5) マンガ・イラスト・CG科CGコース（2年制）コンピュータデザインの基礎知識と3DCG作成の操作スキルを習得し、キャラクターモデリングについて深く学ぶ。ゲームやCGアニメなど幅広い分野に対応できる人材を育成する。

(6) ゲーム・CG・アニメ専攻科アニメ専攻（4年制）アニメーション制作に関わる全般的な技術と共に業界標準となっていく先端的な技術を学び、アニメーションに関連する幅広い分野で活躍出来る人材を育成する。

(7) ゲーム・CG・アニメ科アニメコース（3年制）アニメーション制作に関わる全般的な技術を実践的なワークフローを通して学び、業界の即戦力として活躍できる作画力を持ったアニメーターを育成する。

(8) マンガ・イラスト・CG科イラストコース（2年制）画力の向上をベースにデザインの専門技術を習得し、実践的なイラスト制作を通じて業界が必要とする応用力、提案力を持ったイラストレーターを育成する。

(9) マンガ・イラスト・CG科マンガコース（2年制）漫画制作の実践基礎から空間表現に必要な技術を習得し、漫画賞受賞やプロデビューをして業界で活躍できる人材を育成する。

(10)マンガ専攻科（1年制）さらに高度な技術や高いステップを目指すために個別指導を中心に学び、即

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程の編成・実施。
- ② 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援体制の更なる充実。
- ③ 学生の学修成果を多様な視点から把握するための、環境整備と改善計画の立案。
- ④ 教育活動を確実に実践するための、教育体制の整備・充実。

2. 取組み状況

- ① 技術の進歩の著しい業界にあって、育成人材像に沿った教育を整備・実施するため、教育課程編成委員会での意見を基に、学科会議を行いカリキュラムについての話し合いを行った。
- ② 留学生、また多様性のある学生に対し、退学・留年を防止し卒業率・進級率の向上を図るため、国際交流センター、学生相談専門部門と連携しストレスケアへの対応を行った。学校生活に関する指導は担任のガイダンスおよび主任・校長代行との面談を行った。
- ③ 各種コンテストへの参加を積極的に進めており、客観的視点から教育の達成度を評価する取り組みを行っている。卒業生の専攻分野における社会的評価について、企業担当者に直接ヒアリングするなどして把握に努めている。
- ④ 組織体制に基づき業務分担の見直しを行い、業務の平準化を図ることで、教職員の能力開発と資質向上に取り組んだ。

3. 総括（成果と課題）

- ① カリキュラムを見直すにあたり内容についての議論を行い、方向性を定めた。今後は育成人材像に沿ったものになっているか、定期的な検証をしていく必要がある。
- ② 初期段階での面談を増やし、多欠席や休学・退学の抑制に努めるなど、支援体制の整備と取組みを継続した。留学生に関しては、学生数の増加もあり、国際交流センターとの連携を深め、生活・就職支援体制の更なる充実を図っていく。
- ③ 各種コンテストやハッカソンイベントなどへの参加を奨励し、多くの学生が参加をすることで、学校として客観的な評価を受ける機会を増やした。卒業生の社会的評価について、定量的な尺度で測る仕組みを整備していく必要がある。
- ④ 不慮の事態に備え、教職員の業務分担について常日頃から気を配る必要がある。業務においては主担当、副担当を設定し、滞りなく運営ができる体制を今後も整備していく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

学校の教育理念等については明文化し、ホームページにて社会に公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書や麻生塾ルールブックに掲載し、全教職員で共有している。新入生に対しては、学生便覧に掲載しており、学生便覧を配布しない学生には「教育理念」の部分を抜粋したものを配布し、担任を通じて周知、指導している。同時にグローバルシティズンベシク教育（GCB教育）を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。

【課題】

学生便覧を配布しない学生ならびに非常勤講師には「教育理念」の部分を抜粋したものを配布したが、学校構成員全体への周知を続けていく必要がある。

【今後の取組み】

社会に対してホームページ等を通して広く周知していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

運営方針はルールブックに記載し、規定通り運営している。事業計画についても校長代行を中心に策定し、計画に沿って適切に運営されている。教職員の採用、人事給与に関する取扱いは、各規程等を整備し、学校法人として取りまとめて、適正に運用している。事務職員の意欲・資質向上については、研修計画を立て、計画的に参加をしている。

【課題】

事務職員の研修参加を促進したが、将来のキャリアを見据えた計画の整備とまではなっていない。

【今後の取組み】

事務職員の将来のキャリア構築を踏まえた研修計画の整備を行い、学校運営への支援体制の向上を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

ディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーについては役職会にて決定したものを明文化し、全教職員にて共有している。学生に対しては学生便覧にて、非常勤講師には講師会にて周知している。また、社会に対してはホームページにて公表している。

カリキュラムは教育課程編成委員会で検討し、教務会議にて決定の上、編成している。適切な教育が行われているかの検討会議を行ない、定期的に検証を行っている。

【課題】

技術の進歩の著しい業界にあって、育成人材像に沿った教育を整備・実施するため、定期的なカリキュラムの改訂が求められる。

【今後の取組み】

教育課程編成委員会ならびに非常勤講師会にて、業界で必要とされる人材育成のため、今後もカリキュラムについて検討・検証を重ねていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教員にてカリキュラム会議を定期的実施しており、それを基に教育課程編成委員会で検討の上、カリキュラムを編成している。教育課程の編成・実施方針に基づき、定期的な見直しも行っており、教育の充実を図っている。実践的な職業教育については、企業担当者による業界セミナーや企業説明会、学生作品展を開催するなど業界との交流を活発にすることで、業界理解を深めるとともに実践教育の場として活用している。

【課題】

リメディアル教育について、効果的な活用がなされているとは言えない部分があり、改善の余地がある。

【今後の取組み】

業界・企業との連携をより深め、インターンシップ制度の整備、インターンシップ報告書提出の義務付けを進める。実践教育の充実を図ることで、学生のキャリア発達を促す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	A
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	A

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業アンケートの結果に基づき、必要に応じて教員に対して指導を行い、改善を図っている。改善の評価は、ミニアンケートを活用して早期に判断ができるようにしている。また、新たな評価方法として、校長代行、主任による授業観察を行った。

【課題】

新任教員に対して、評価体制を理解するための指導・研修を行う必要がある。

【今後の取組み】

主任、リーダーが中心となり、新任教員に対する授業方法・評価に関する研修を整備、実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

全ての科目で正試験及び正試験に準ずる方法で適切に評価している。また、評価規定については学生便覧等にて学生に周知している。

【課題】

現状、成績評価基準について特に問題はないが、成績評価基準が適切であるかの継続的な確認と学生自身に意識をさせていくことが必要。

【今後の取組み】

学生自身が常に意識しながら授業・課題に取り組めるよう、認定基準について理解を深めていくための環境を整備する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

組織の体制は整備されているが、各種研修への参加を促進することで、教員の質の向上を図っていく。教育活動については学科・系単位でリーダー、サブリーダーを配置し、適切に運営している。各学科に必要な資源は確保しているが、業務改善の為に業務分担の見直しなどの取り組みを行う。

【課題】

不測の事態に備え、業務を属人化させないよう業務分担の見直しについて取り組んだが、まだ十分とはいえない。

【今後の取り組み】

組織体制に基づき業務分担の見直しを行い、教職員の業務の平準化を図ることで、能力開発と質の向上に取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	A
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

教育活動の成果としての成績、検定取得、退学者等の目標値については事業計画の中で全教職員に周知している。進捗状況については毎月、クラス運営報告書として各クラスの状況を報告し、その状況を定期的な学科会議等で振り返っている。月例会議にて学校全体で状況を共有すると共に進捗を確認し、必要に応じて修正を行っている。各種コンテストや検定試験においても積極的に取り組んでおり、上位入賞や高い合格実績を残している。

【課題】

卒業生の社会的評価について就職担当者による企業ヒアリングを行っているが、定性的な内容にとどまっている。

退学防止について、対策は講じているものの、まだ十分とは言えない。

【今後の取組み】

卒業生の社会的評価について定量的に図るための環境を整備し、評価内容を明確にすることで具体的な改善策を立てる。

退学防止について、学習課題の負荷の分散を図るなど、より具体的な対策を講じていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学校内に就職専任スタッフを配置しており、また、学生相談専門部門と連携し学生のストレスケアへの対応を行っている。学校生活に関する指導は担任のガイダンス及び主任・校長代行の面談にて連携して対応している。学生の能力向上を目的として、ラボ(研究室)活動を行っており、業界就職率の向上やコンテストへの入賞など実績を残している。

【課題】

多様性のある学生への対応が課題となっており、学生個人にあわせた支援が必要となっている。

【今後の取組み】

修学支援や生活支援、進路支援についての方策を学校全体で共有し、学生の満足度向上のための環境整備を推進していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	A
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S

5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

基準 6 教育環境

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

学校として基本となる施設、設備については事業戦略グループと連携し、年度毎に教室の見直し及び設備の補充をしており、かつ良好に管理ができています。教育環境の整備については、規定やルールを定めています。図書室については専門分野についての資料を設置し、教職員、学生が利用できる状態になっている。また、資料としてのマンガ単行本の充実も図られている。

【課題】

図書室における専門書の蔵書が不足しており、有効に活用されていない。
備品管理表の整備がなされていない。

【今後の取組み】

校友会記念品として贈られる図書にて専門書の充実を図る。自習や就職活動での活用といった具体的な活用方法を明示し、利用の促進に繋げる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学内外の安全対策に関しては防災、防犯設備の点検や避難経路を掲示し教員の周知徹底を図っており、避難訓練も計画に基づいて実施している。また、学生の登下校及び学校生活については注意を促しており、安全確保にも十分に配慮している。

企業との連携により企業担当者を招いての業界セミナーや企業説明会を積極的に実施しているが、インターンシップについて、体系的な実施環境が整っていない。

【課題】

業界団体が主催するインターンシップ制度への参加は行われているが、教育を目的とした企業との連携によるインターンシップの環境が十分に整備されているとはいえない。

【今後の取組み】

教育課程編成委員会などの場を通じて企業との連携を深め、教育を目的としたインターンシップの場の充実を図るとともに、参加記録表を整備する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	A

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーは全教職員に周知し、募集要項及び学校ホームページにて社会に公表している。募集活動においては学科毎の育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等を伝えられている。募集要項及び学校ホームページに入学者の選抜方法を明示し、公正かつ適切に実施している。学生納付金についても同様に明示しており、経営推進部門と協議を行い妥当性のある金額に設定している。

【課題】

定員数や選考基準など、業界に即したものになっているかを検証する仕組みが必要である。

【今後の取組み】

教育課程編成委員会にて意見を募り、学生の受け入れ方針や定員数について学科検討会議の中で継続的に検証していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	B
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

定員充足率、入学者比率は、改善傾向にある。収入と支出のバランス、また、貸借対照表からも、財務基盤は安定しているといえる。年度予算に従って管理運営が厳格に行なわれており、部門長にて月次での予算管理が行なわれている。

監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特に問題なし。今後も適切に財務管理を行っていく。

【今後の取組み】

年度予算、中期計画が適正なものになっているかを検証し、適切に管理・運用していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

専修学校設置基準を遵守している。教育環境については教育支援グループ・学事グループと協議し、教室設備の見直し、教員配置の確認を行っている。

【課題】

特に問題なし。事業戦略グループと連携し、必要に応じて校舎、教室の整備・調整を行う。

【今後の取組み】

法令、専修学校設置基準に変更が生じた場合は、基準に沿って速やかに整備を行う。
教職員に法令順守に関する研修への参加を促す。また、個人情報保護規定の取り扱いについて、定期的な共有を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====
基準 10 内部質保証
=====

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

自己点検については担当教職員を中心に評価を行ない、問題解決のために教職員全体で共有を行っている。その結果に基づいて、改善計画を作成・実施し、ホームページでの公開及び学校関係者評価委員で説明を行っている。学校関係者評価委員会の結果は麻生塾ホームページにて発信している。

【課題】

自己点検で明確になった課題について、教職員全体で改善に向けた方策を講じる必要がある。

【今後の取組み】

教職員全体会議、学科会議にて自己点検で出た課題の改善策を協議し、問題解決に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準 1 1 社会貢献・地域貢献
=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

毎年3月に開催している「お仕事スタジアム」にて、地域の高校生に対し将来の職業観の醸成を高める活動を行っており、社会貢献活動の一環として広く定着している。
ボランティア活動についても、地域で行われるイベントに毎年ボランティアとして参加するなど、学生の活動を奨励している。
市立中学校を訪問しての体験授業や福岡市主催の地域イベントへの参加を通じて、地域貢献活動も行った。

【課題】

地域に根差した学校として、地域住民への貢献活動を推進していく必要がある。

【今後の取組み】

教育機関であるからこそできる、教育資源を活かした地域住民の方を対象とした公開講座の実施を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受け入れについては、事務職員が必要な研修を受け、また留学生担当部門と連携し留学生の適正な手続きと在籍管理が行われる体制を整備している。また、留学生については担任を中心として、複数の教職員で関わるようしており相談できる体制を整備している。

海外留学プログラムの作成、学生・保護者への説明、出発前オリエンテーション、危機管理シミュレーション、出発時・留学中のサポート、帰国後報告会等を実施しており、海外留学プログラムに対する支援は、海外留学担当部門が適切に行っている。

【課題】

学生の海外留学プログラムに対する支援について周知は行っているが、募集のための具体的な施策が設けられていない。

【今後の取組み】

海外留学を募集するにあたって、全体に周知をするだけでなく、個人単位で具体的な支援策を講じていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S